

---

# ミラーワールド 異世界への干渉三体の竜

レー x Kroud

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ミラーワールド 異世界への干渉三体の竜

### 【Nコード】

N7313Y

### 【作者名】

LeeKroud

### 【あらすじ】

コラボ作品、仮投稿です

ジダイガ

『暇だ』

リアルワールドに行った時には酷い目にあつたしな。

ジダイガ

『違う世界とミラーワールドを繋げてみるか』

繋げるならフェシオダにするか、トレイトがどんな反応をするか楽しみだ。

ジダイガはとある世界とこの世界を結ぶ巨大な穴を作りだした。

\*\*\*

その頃竜界では・・・

アルス

『ドランドー、ラウー。こっちにこーい』

アルスが龍人とラウを呼んだ。

ラウ

《どうしたの？・・・って何？これ・・・》

そこには空間に巨大な穴が開いていた。

龍人

「アルス。なんなの？これ？」

アルス

『我にもよくわからん・・・さっきいきなり出来始めたのだ』

龍人

「へ？」

非常にとぼけた返事だ。

ラウ

《とりあえず、何があるか分からないから下がってましょっ？》

龍人

「そうだね」

アルス

『うむ』

そして俺達は、その巨大な穴を見つめていた・・・

\*\*\*

ジダイガ

『世界を繋げるなど他愛もない』

とりあえず穴の先にいくか・・・

巨大なドラゴンがいる・・・しかも数体。

ジダイガ

『面白い！貴様らをミラーワールドに招待してやろう！』

ドラゴン達の足元の空間に穴を空けミラーワールドへ落とす・・・

\*\*\*

俺達はしばらく空間に生まれた巨大な穴を見ていた・・・

龍人

「何も起きないね・・・」

アルス

『そう・・・だな・・・』

そう思い始めた次の瞬間だった

龍人

「っ！ うわっ！！！！」

アルス

『なっ！！！！！』

ラウ

《キャッ！！！！》

突如足元に巨大な穴が生まれた。

そして俺達はその穴へと落ちていった・・・

\*\*\*

ジダイガ

『貴様らをミラーワールドへ連れて行ってやるっ』

とりあえずドラゴン達に空間の狭間で会話をしてみるか

\*\*\*

落ちていく途中で黒い服を着た人間(?)と出会った。  
そいつはいきなり

「貴様らをミラーワールドへ連れて行ってやるっ」

と言った。するとアルスが

アルス

『ふざけるな！ 我らを今すぐ返せ！！ いったい貴様は何物なの  
だ！！！！』

龍人

「そつだ。」

\*\*\*

その中にいた

『ふざけるな！ 我らを今すぐ返せ！！ いったい貴様は何物なの

だ！！！』

全く、礼儀がない。少し落ち着け。

ジダイガ

『セイ・ジダイガだ、ただの人間を警戒することはなかるう？それよりも、違う世界を見てみないか？』

この中に好奇心の強い元人間がいる、きっと話に乗るはずだ。

\*\*\*

その人間は『セイ・ジダイガ』と名乗った

龍人

「違う世界？」

俺は、見てみたい。そう思ったが、アルスがジダイガという人を睨み付けている。

どうしたらいいだろうか・・・

ラウ

《あら？違う世界？面白そう》

どうやらラウも興味を持ったようだ。

それを見ていたアルスはため息をついて、ジダイガを睨むことをやめた。

アルス

『どうやら、ドラドとラウが興味を持ってしまったようだな。仕方ない……』

龍人

「えっ？アルス。いいの？」

アルス

『ああ……』

龍人

「やった！じゃあ、とりあえず自己紹介が先だね。俺はりゅ……  
じゃなくてドラド。よろしくジ  
ダイガ？さん」

ラウ

《そうね。私はラウ。よろしく》

アルス

『……わ、我はアルスだ……』

\*\*\*

ジダイガ

『貴様の名前は龍人だろ？空間の支配者である私に嘘は無駄だ。契約の瞬間を見ていたからな。まあいい、私は漆黒と空間を支配する黒族だ』

\*\*\*

龍人

「なっ！！」

ジダイガは的確に俺の名前を当てた。なんでわかった？契約の瞬間を見ていた！？黒族ってなんだ

！？

・・・考えても仕方ない。

龍人

「その通りです。俺はドラドじゃなくて黒杉龍斗です」

その後アルスとラウを見た。2匹は、俺の名前が分かったことに驚いていたのか、はたまた黒族ということに驚いていたのか、あんぐりと口を開けていた。

\*\*\*

龍人

「その通りです。俺はドラドじゃなくて黒杉龍斗です」

ジダイガ

『自己紹介は終わりだ、では、落ちろ！』

空間を捻曲げドラゴン達をフェシオダに送り込む。

\*\*\*

リード視点

リード

『何だこいつは……』

目の前で空間が割れてドラゴンが三体現れた。

リード

『暴れられては敵わん。サンダーベイン雷魔法』

とりあえず、痺れさせようか。ドラゴンに雷の塊を投げつけた。

\*\*\*

ジダイガ

『自己紹介は終わりだ、では、落ちろ！』

龍人

「えっ？落ちろって……っ！うわあああああ！！！」

そうして俺達は空間から脱出した。というか放り出された？

『サンダーベイン雷魔法』

すると何者かがいきなり雷の塊をこっち目掛けて放った。

龍人

「くそっ！ファイアーボール火炎球！！」

そうして俺はその雷を相殺した。

\*\*\*

龍人

「くそつ！ファイアーボール火炎球！！」

サンダーペインを相殺するだど？

リード

ウインドブレード  
『風魔法』

風で切り裂いてやる！

テルトス

『トレイト・リードさん物騒ですよ？ロストヘイル虚撃』

風の刃は奇妙な壁に阻まれてしまったか。

テルトス

『私はワー・テルトス。大丈夫ですか？ドラゴン達よ』

\*\*\*

リード

ウインドブレード  
『風魔法』

今度は風かよ。くそつ、厄介だ。

そうして俺はブレスをしようとした。  
すると・・・

テルトス

『トレイト・リードさん物騒ですよ？ロストヘイル虚撃』

そう言うと、風の刃が奇妙な壁に挟まれ消えた。

テルトス

『私はワー・テルトス。大丈夫ですか？ドラゴン達よ』

龍人

「え？あ、ええ。まあなんとか・・・」

それよりもリードとか言うあいつに文句を言ってやりたい。

龍人

「いきなり何すん・・・」

そう言おうとしたらアルスが話し出した。

アルス

『おい！そのリードとか言うやつ。なぜ我らに攻撃を仕掛けた。我らは何もしておらぬではないか』

\*\*\*

アルス

『おい！そのリードとか言うやつ。なぜ我らに攻撃を仕掛けた。我らは何もしておらぬではないか』

リード

『危険生物は全て排除だ！』

テルトス  
『話しにもなりませんね……。』

リード  
『私の使命は危険を排除するだけだ！テルトス！お前も危険人物として逮捕する！』

テルトス  
『不毛な言い争いは嫌いです。ドラゴン達よ、今から違う場所に転移しますがいいですか？』

\*\*\*

龍人  
「（あああ……。知り合い同士でもめだしちゃってるよ……。）」  
テルトス  
『不毛な言い争いは嫌いです。ドラゴン達よ、今から違う場所に転移しますがいいですか？』

龍人  
「別に俺達は構いませんが……。なあ、アルス、ラウ。」

アルス  
『うむ』

ラウ  
《別にいいわよ》

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7313y/>

---

ミラーワールド 異世界への干涉三体の竜

2011年11月21日23時46分発行